

変貌する街、されど 変わらぬ下町情緒

四 方を海と川に囲まれた月島署管内は再開発によって変貌し続けている。その一方で下町情緒は変わることなく代々受け継がれ、安全安心な住み心地のよい街となっている。

月島署管内には、「もんじゃ」

で有名な月島地区、高層マンションが林立する佃地区、再開発が続く晴海地区合わせて三つの話題スポットがある。さらに、通勤・通学の拠点となっている勝どき地区、魚類などの物流拠点となる豊海地区があり、バラエティーに富んでいる。自転車なら三、四分で一巡りできるコンパクトなエリアだが、その中身は非常に濃いという。そこで月島防犯協会の山内栄一郎会長と浦木太郎副会長、事務局の石黒隆雄さん、橋口芳幸さんに

自慢の街を案内していただいた。

再開発で活気溢れる街に

この地区で今最も注目されているのが、オリンピック選手村跡地の再開発事業「晴海フラッグ」だ。来年の完成を目指して急ピッチで工事が進んでいる。「完成すると約二万人が入居することになります」と期待を込める石黒さん。晴海地区はさらに変貌を遂げようとしている。四方を海と川に囲まれた、まさに島であった月島地区だが、再開発が進む広大な土地、隣接

地域と繋ぐ八つの橋の整備と地下鉄の伸長という利便性の向上によって発展し続けている。

その恩恵を受けている地域の

一つが月島西仲通り商店街。通称「もんじゃストリート」と呼ばれるとおり、ここには約一〇〇軒のもんじゃ店がひしめき、どの店もいつも大盛況だ。

「コロナ規制が緩和されるのに伴ってお客さんも増えてきて、元の賑わいが戻りつつあります」と橋口さんがいうように、修学旅行のバスが連なってやって来る光景も復活している。

地下鉄や橋の整備は佃地区の



↑山内会長(中央)と後列左から菅原防犯活動アドバイザー、事務局の橋口さん、浦木副会長、熊谷生活安全課長、事務局の石黒さん

高層マンションの建設ラッシュにも寄与している。閑静な下町だった佃地区の再開発によって一挙に人口が増えた。若いファミリー層の姿も目立ち、街は活気に満ちている。

「ひと頃の中央区は人口が六、七万人しかいなかったのが、今では二〇万人程度まで増加しています。都区内でこんなに人口が増えたのは中央区くらいで、そのほとんどが月島署管内です」と橋口さん。

下町情緒に溶け込む 伝統行事と地道な活動

人口増加によって街が活気づく一方、昔ながらの下町情緒も生きている。月島署管内には一四の町会があるが、勝どき西町会長も務める山内会長をはじめ、各町会の結束は強く、地元行事は町会総出で盛り上げている。特に八月に催される佃住吉神社の例祭は町会ごとにも神輿が出て地元以外にも見物人が大勢訪れる名物行事だ。



↑「晴海フラッグ」完成時のイメージ
©晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業特定建設者市街地再開発事業完了時イメージ
→月島西仲通り商店街は「もんじゃストリート」と呼ばれている

「今年は三年に一度の大祭の年です」と山内会長。コロナ禍での開催をどのようにするか、これから町会や神社総代と詰めていく。また、佃公園で毎年行われる盆踊りも、地域の人たちには欠かせない夏の催しとなっている。これらの行事は、高層マンションなどのファミリー層や若い人たちに地元意識を持ってもらうのにも役立っていて、若い人たちが町会に加入して神輿を担いだり、盆踊りを見物するだけでなく参加する人が増えたりして交流も進んでいる。



↑佃住吉神社の例祭

「最初は遠まきに見ていた人も次第に輪に加わって一緒に踊ったり、町会に入って神輿を担ぐ若者たちが増え、ここを自分の街・故郷だと思えるようになってくれています」と浦木副会長。山内会長も「若いファミリーが多いということは、子供や若者も増えているということ、それは街の将来に繋がっていきます」とこれからの街の発展に大きな希望を感じているようだ。もう一つ、これだけ急激に人口が増えたにもかかわらず、犯罪も交通事故も少ないことが自慢だ。これも、防犯協会と連合町会、月島署の連携で実施される防犯キャンペーンやパトロールなど、地元根付いた地道な防犯活動の成果といえる。

この街の魅力を「都心へのアクセスがよく、賑わいがあり安全安心、水辺には自然があって人情も厚い。ここは住み心地のよい街なんです」という浦木副会長の言葉に説得力と期待感を感じた。